



街角レポート

“空き店舗”を活かしたまちづくり
「くじら屋」（鯨ヶ丘商店会）

このコーナーでは、県内外のまちづくりやちょっと素敵なまちなかのお店や施設などをレポートし皆さんにご紹介します。



くじら屋（常陸太田市東2町）



1Fで販売している「くじら焼」



いも屋

今回は、常陸太田市鯨ヶ丘商店会が行っている空き店舗対策事業をご紹介します。

鯨ヶ丘商店街は、明治時代に葉たばこの市場を中心に商業の街として繁栄してきましたが、昭和50年代を境に、公共施設の移転や郊外における大型店舗の進出等の影響から徐々に衰退していき、空き店舗が目立つようになりました。

そんな中、昔のにぎわいを取り戻そうと、鯨ヶ丘商店会と市商工会が空き店舗を利用し、特産品の「くじら焼き」を販売する直営店「くじら屋」を平成14年に開店させました。

くじら屋の外観は和風造りになっており、2階部分の外壁には、同市の中世・明治の街並みを描いた壁画が飾られています。

壁画は、「佐竹旧城跡」と「太田市内煙草（たばこ）市群集」の2枚で、明治34年に太田の姿を描いた「太田勝景誌」の中から一場面を拡大したものです。

また、店舗1階では特産品の「くじら焼き」を販売しています。これは、同商店会の名称にちなんだ「たいやき」風のお菓子ですが、生地がたいやきとは違い、冷めても美味しく食べられるそうです。

2階は、多目的スペースとしてサークル活動や会議に貸し出しており、多くの市民に利用されています。

さらに同商店会は、直営2号店の「いも屋」を平成15年に開店させました。

いも屋も、空き店舗を和風に改装し、石焼き芋やさつまいもを使ったお菓子を販売しており好評を博しています。また、店内の座敷も市民に開放される予定です。

同商店会の渡辺彰会長は、「商店街は、昔から地域コミュニティの重要な役割を果たしているのでも、これからも色々な視点から商店街の価値を再確認し、活用し、そして残していきたい」と話しておられました。

鯨ヶ丘商店会は、商店街の活性化からの「まちづくり」を考えています。「くじら屋」「いも屋」が果たす役割は大きく、市民から熱い期待をかけられています。

（問い合わせ先 常陸太田市商工観光課

TEL 0294-72-3111内線217）